

琉球の方言 2巻 : 奄美大島宇検村湯湾方言

法政大学沖縄文化研究所

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言

(巻 / Volume)

2

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

166

(発行年 / Year)

1976-10-31

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012853>

1. 自然談話

大友英良氏（77歳）に湯湾の年中行事について話をしてもらった。大友氏は、以前宇検村国民年金委員、民生委員児童委員協議会の役職にあり、現在は宇検村文化財審議委員、湯湾老人クラブ仲良し会会長をつとめておられる。

大友氏はずっと現地生活を送った方で、ゆっくり内省を働かせつつ話をされる時は、純粹の湯湾方言が出る。但し、当自然談話のように、あるひとつのテーマをもって話をするという場面になると、上記役職にたずさわっておられたせいか、かなり共通語の語彙が出てくるようになる。あるいはまた、1人で談話をするという場の条件もかなり語の出方に影響を与えたのかも知れない。しかし、たえそうではあってもこれもまた湯湾方言のひとつの実態であると考え、ここに記録することにした。

tɯʃi ʔakʲiti ʔitʃigatsi ʔitʃidʒitsi ja
年 明けて 1月 1日は
kjonon ʔitʃinʲnnu budʒiba jurukudi ma-
去年 1年の 無事を 喜んで ま
dzʲi gwantannu ʔasanu gifikio fun ka-
ず 元旦の 朝の 儀式を する。家
dzokuga ʔutʃisuruti ʃinnennu jurukubitu
族が 集まって 新年の 喜びと
mata kutuʃi ʔitʃinʲnnu budʒide ʔagkutu-
また 今年 1年の 無事であること
ba ʔoinori fun so:ʃite gosendzosamani
を お祈り する。そして ご先祖様に
reihaiʃi mukafinu sosennu sotʲitsi ʔuʲi-
礼拝し 昔の 祖先の 蘇鉄 植付
tsʲikʲija ʔitʃigatsi nintʃini hadʒimiti
けは 1月 2日に 始めて
ʃigutuhadʒimʲtʃuʃi juwə:ʃun so:ʃite

仕事始めとし 祝い する。そして
mikkakara kinʃinnu ʃinsekinu rentʃu: o
3日から 近親の 親戚の 連中 を
tadzʲiniti nenʃinento:nu ʔaisatsʲio ʃi
訪ねて 年始年頭 の 挨拶を し
ʔugamjun so:ʃite nagkaniwa nanakʲusa-
拝 む。そして 7日には 七草粥
gaju kamjun narawafʲi so:ʃite dʒu:-
食べる ならわし。そうして 15
gonitʃi hatsʲikaja kʲwaʃo:gatsʲi ʃitʃi
日 20 日 子正月 して
ʔo:kʲiku mata so:gatsʲio fun narawafʲi
大きく また 正月 をする ならわし
jassʲiga sorekara nigatsʲini narʲiba na:
であるが、それから 2月に なればもう
kundo:nu suito:ja ʔimosakunu dʒumbinu
今度の 水稻は 芋作の 準備の
keikakuo hatarakjun wake kaggʲi:ti
計画を 働く わけ 考えて、
so:ʃite suito:nu naefirotsʲikuri mata
そうして 水稻 の 苗代づくり また
ʔimonu naedokutsʲikuri nu dʒumbi hadʒi-
芋の 苗床づくりの 準備 始
mʲiti ʃugkutu sorekara saggatsʲiwa
めて すること。それから 3 月 は
saggatsʲi sannitʃinu wunagunu sekkuto
3月 3日の 女の 節句と
ʃʲite jomogimutʃiba takusan tsʲikʲuti
して 蓬 餅 を たくさん つくって
wunagunu kʲwaga hadʒimʲiti mʲarʲitan ja:-
女の 子が 初めて 生れた 家
ʃkja:nti wunagunu sekkuo seidaini fun
などで 女の 節句を 盛大に する。

so:fite saggatsinnja nigatsin tsiku-
 そして 3月には 2月に つくった
 tan naefironu tanemaki fupkutu soreka-
 苗代の 種蒔き すること,それから
 ra figatsinu hadziminnja hatsim?anu
 ら 4月の 初めには 初午の
 ci:ni mugimefiba tsikuti biraba ?iri-
 日に 麦めしを つくって 蕪を 入れ
 ti ?otsijugja tsikuti kamjun sofite
 て お汁など つくって 食べる。そして
 nakam?anu ci: ?atum?anu ci: sagkwaimo
 中午の 後 午 の 日 3回も
 ?asidi kotofinu sakubutsinu mufijokeo
 遊んで 今年の 作物の 虫除けを
 kaggijug kutu mata mufi?uio fupkutu fi
 考える こと,また 虫追いを することをし
 figatsinu tfu:dzugkara tekito:na dziki-
 4月の 中旬から 適当な 時期
 ni taue ba hadzimijun sofite figatsidz-
 に 田植えを 始める。そして 4月中
 u:nja ta:ja ?uti ?uwati sorekara dzu:fi-
 には 田は うち 終って それから 14・
 gonitfikara ta:nu kusatuinu hadzima jun
 5日から 田の 草取りが 始まる。
 ganfifi figatsi ?ukuti gogatsinja: ma-
 このようにして4月 送って 5月には また
 ta gugatsigunitfiga ?ati takenu kawafi
 5月5日が あって 竹の 皮で
 nagai mutfiba tsikuti jigganu k?wanu
 長い 餅を つくって 男の 子の
 sekkutufi seidaini fun narawafi so:fite
 節句とし 盛大に するならわし。そして
 kug gugatsikaraja ?im?uetsikeo ?iffo:-
 この 5月からは 芋植付けを 一生
 kemmei cakufu:wa hatarakjun

けんめい 百姓は 働く。
 rokugatsikaraja rokugatsinu suennja
 6月 からは 6月の 末には
 n?iga dzikufihadzimijugkara n?ikure:
 稲が 熟しはじめるから 稲食い
 ?asibitfifji n?inu dzikufan ?inaho:ba
 遊びとって 稲の 熟した 稲穂を
 mutfifji sinso:katfi ?agiti so:fite
 持ってきて 先祖へ 上げて そうして
 n?inu dikiguaiba jurukubjun so:fite
 稲 の 出来具合を 喜ぶ。 そうして
 ho:sakuba jurukudi rokugatsikara
 豊 作 喜んで 6月から
 ?umatsirinu dzumbigkja fi mata n?i-
 お祭りの 準備など して また 稲
 kaigkja kju:nu rukugatsikaraja mo:
 刈りなど 旧の 6月からは もう
 ?uwati sofite takagurani ?irijun
 終って そして 高倉に 入れる。
 sorikara citfigatsiniwa mo: citfiga-
 それから 7月には もう 7月
 tsii dzu:sannitfikara mukafikara
 13日 から 昔から
 ?obogga ?ati mukafinu soseno mukijun
 お盆があつて 昔の 祖先を 迎える
 dzumbio fun dzu:sannitfi dzu:jukka
 準備を する。 13日 14日,
 dzu:sannitfimi gosendzosamao hakakara
 13日に ご先祖様を 墓から
 mukitittfi dzu:jukka dzu:gonitfito
 迎えてきて 14日 15日と
 mikkakannanti mukafinu senso:samao
 3日間の間 昔の 先祖様
 ?o:kiku goso:fi sofite dzu:gonitfinu
 大きく ごちそうして そして15日の

juruni fu:ti hakakatſi ʔikjun sorekara
 夜に 送って 墓へ 行く。それから
 ʃo:ro:ganafiba fu:tittſe:ra ʃo:dʒinʔu
 精霊様を 送ってきから 精進落とし
 tufitſi so:ʃite namamadi :ʃodʒin ʃidu
 といって、そして 今まで 精進と いう
 rjo:rifi kadan mun sono ʃo:dʒino
 料理を 食べたものだ。その 精進を
 mata ʔju:o tabete ʃo:dʒinʔutufidʒi
 また 魚を食べて 精進落としと
 ʔitſi ko:ʃite ʔukkaraga na: ʔubun-
 いてこうしてそれからが もう お盆
 ʔuduriga hadʒimajun kamisamatu
 踊りが はじまる。 神様と
 ʔiſſoni wuduikurabi sīro:ʃitſi bon
 一緒に 踊り競争 しようと 盆
 wodoriga hadʒimajun ʔupkara bonwodo-
 踊りが はじまる。それから 盆踊
 ri ʃitſigatsikara dzī:tto hatfigatsi-
 り、 7月から ずっと 8月
 gadī bonwodorinu keiko:ʃi hatfigatsi-
 まで 盆踊りの 稽古をし 8月
 nnja ʃibasafiparasitſi dzu:gojatſi
 には シバサシアラスイといって15夜と
 tsigitsigi burakuburakunai juti ʃima-
 次々 部落 部落 によって 島
 ʒimanai juti matsiriga seidaini fun
 々に よって 祭りが 盛大に行なう。
 sorewa nu:kaitſi ʔju:baja nʔisakunu
 それは なにかと いうと 稲作の
 mansaku natan jurukubide jurukudi ʔo:-
 満作 なった 喜び で 喜んで、大
 ini tanofiku ʔobogkara hatfigatsiwa
 いに 楽しく、お盆から 8月は
 toriʔirega ʔuwati jurukubjun ʔukkara

取入れが 終って 喜ぶ。それから
 hatfigatsinu wa:kja juwanmantija ʃiba-
 8月の 私達 湯湾では シバ
 safiſi kwaikwannu niwanan sei:so:neſſa
 サシも 会館の 庭で 青少年が
 ʔatsimati do:ʒo: tsikuti ʃirato:dzimo:
 集って 土俵 作って 素人 相撲
 tujun mukafikara futsikakan si:mo: tu-
 とって 昔から 2日間 相撲 と
 ti banna hatfigatsiwodorio ju:nu ʔaki
 って 晩には 8月踊りを 夜の 明け
 ggadi ʃun kuriga mukafikaranu hatſi-
 るまでする。これが 昔からの 8
 gatsinu matsiri ʔo:kina gjo:dʒidʒessī
 月の 祭り、 大きな 行事である
 ga hatfigatsinu dugga ʔo:katanutʔuja
 が、 8月の ドウンガ祭り、おゝかたの人は
 mata sosennu kaiso:pkja: ʃi sekito:o
 また 祖先の 改葬など して 石塔を
 tatiti ʔoiwaio ʃi jurukubjun kugatsi
 たてて お祝いをして 喜ぶ。 9月
 dzu:gatsi dzu:ʔitfigatsija mukafinu
 10月 11月は 昔の
 kajabukinu dzidainja janenu fu:ri ʃi
 茅葺きの 時代には 屋根の 修理 し
 burakumin so:de ʃi ja:nu fu:riba ʃi
 部落民 総出 して 家の 修理をして
 janenu Fukikaepkja ʃi tsigitsigitu
 屋根の 葺きかえなどして 次々と
 minnafi tasikʔo:ti jabufino kjo:rjoku
 皆んなで 助け合って 家普請を 協力
 ʃiʔo:ti ʃi: ʔikjun ʔitfinendzu:nu
 しあってし 行く。 1年中の
 ʔuetsikita hansipkja ʃodzo:ʃi ʔiſſo:-
 植付けた 芋 など 貯蔵し 一生

kemmei fi kaggaikara nugawariḡḡanenfi
けんめい して 干害から 逃がれるように
hansinu tfodzo:ḡkja hatarakjun

芋の 貯蔵など 働く。

fo:gatsija dzu:gatsi dzu:ʔitfigatsika-

正月は 10月 11月から

ra dzitto fo:gatsiba kaggi:ti fo:ga-

ずっと 正月を 考えて 正月

tsinnja ʔo:kiku fo:gatsigī:ba dzumbi

には 大きく 正月木(薪)を 準備

fi ʔatarafan tuḡi: mukī:jun hatarakio

して 新しい 年を 迎える 働きを

fun ganfifi mukafikara kun Fykinnu

する。このようにして昔から この 付近の

fimadḡimaja mina ʔwa: ʔitto:dḡitsi

島々 は 皆 豚 一頭ずつ

kurutḡi fo:gatsija dgeitakuni nikug-

殺して 正月は 贅沢に 肉など

kja kadi fo:gatsi fi sono kadzokunu

食べて 正月を してその 家族の

dzu:nifi minna sannjo:fiḡfi dzikkan

十二支 皆 計算して 十干

dzu:nifinu ḡinu mawatikjun tuḡinnja

十二支の 日の まわてくる 時には

kun tuḡinu ʔun kʔwaḡkjanu tuḡinu ḡi

この 年の その 子たちの 年の 日

tuḡijuwē:ḡkja fun narawafi

年祝い など する ならわし。

kanfi mukafija so:fite kanaradzī

このように昔は、 そうして 必ず

fo:gatsinnja jo:gatsijo:nu kʔintu

正月には 正月用の 着物と

ʔafidḡao dzibundḡibunfi tsīkuti dzikju:-

下駄を 自分自分で 作って 自給

dzisoku fi fo:gatsi futan kuriga

自足して 正月を した。 これが

ʔo:fimanu narawafitu nendḡu:ḡjo:dḡi

大島の ならわしと 年中行事と

natuḡ kutu jassiga

なっていることであるが。